

■After 建築名称 下段: 英語名	大英博物館グレートコート The British Court		
建築用途	大分類 展示施設	小分類 博物館、図書館、美術教育センター	
改修設計者	Norman Foster and Partners	URL	After ガラスの屋根を掛けて内部化された中庭
所在地	イギリス、ロンドン	Google Map	
改修年	2000		撮影者提供者 柳沢伸也(2006年)
建築規模	延べ面積:19,000㎡		概要 after 歴史的文化遺産である大英博物館の中庭に、大きなガラス屋根を設けて内部化し、エントランスホールやショップ、美術教育センター(地下)に転用した。
掲載書誌	『SD433号』2000年、『コンパクト建築設計資料集成・都市再生』		
賞・選定			
■Before 建築名称	大英博物館図書閲覧室		概要 before 19世紀に専門家用の図書館と付随する書庫群が増築され、立入り禁止区域の中庭だった。
建築用途	大分類 図書館・資料館	小分類 図書室、資料室	
■写真 Before	After かつての面影を残す図書室	After 中庭のカフェ空間	
写真2 Before写真	写真3 写真		
撮影者提供者	撮影者提供者 柳沢伸也(2006年)	撮影者提供者 柳沢伸也(2006年)	
■リノベーション内容	キーワード 用途変更、大規模改修、外観保存、増築、対比	内容 イングリッシュ・ヘリテイジ(登録文化財制度)で最も重要と評価されていた建物の中庭空間を、周囲の歴史的建造物と同じ床レベルに持ち上げ、建物の動線を連続統合し、屋根をかけてエントランス空間へ転用した。設計者のノーマン・フォスターは、これにより従来の懸案事項であった観光客のためのスペース不足や、複雑な動線、バリアフリー対策、空調問題など多くの問題を解決した。 既存の建物は、1823年のRobert Smirkeによるデザイン。今回の大改造では、戦後、中庭に増築された部分をすべて撤去し、屋内化したことに特徴がある。中庭がメインエントランスに転用されたことにより、各展示室への動線が飛躍的に明快になった。 修復された専門家用図書室は、一般利用のものに変更され、その外側には楕円状のボリュームが増築され、インフォメーションやショップ、カフェなどのサービス機能が付加された。中庭の地下空間は美術教育センターとなり、イベント等に利用されている。	
■備考	大英博物館のリノベーションは、ロンドンのミレニアム・プロジェクトのひとつであり、大英博物館にとっては250周年記念の大事業である。複雑なガラスの屋根形状に対応するため、△を単位としたネット状の形態が採用された。円筒状図書室の廻りには、荷重を支えるための壁面が増築されている。		
■作成者 氏名/所属	柳沢伸也/JIA再生部会		管理者 記載 SY-013